

九州産業大学開学 55 周年記念式典にあたって

ただ今ご紹介頂きました、理事長の一ノ瀬でございます。

本日は、ご多用にもかかわらず、各界から多くの皆様方にご臨席を賜り、ここに、九州産業大学開学 55 周年記念式典を挙行できますことを、厚くお礼申し上げます。

本学は、昭和 35 年に中村治四郎先生が、「産学一如」を建学の理想と掲げ、九州商科大学を前身として設置され、以後、高等教育機関として、広く産業界の期待に応え発展してまいりました。



学校法人中村産業学園
理事長 一ノ瀬 秋久

現在では、8 学部 20 学科、大学院 5 研究科を擁する、1 万を超える学生が学ぶ西日本屈指の総合大学となり、又、この間 11 万人を超える卒業生を社会に輩出することができました。

これもひとえに皆様方のご支援、ご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、皆様方もご承知のとおり、私立大学を取り巻く環境は、少子高齢化に伴い、18 歳人口が激減する 2018 年問題や社会のニーズの多様化など、一段と厳しさを増しております。

このような状況の中、本学は平成 26 年 4 月から、入学者全員が 2 年間、全学共通で教養科目を、そして英語を中心とした外国語、専門課程へのスムーズな移行を目指した専門基礎など九産大生としての、あるいは社会人としての基盤を培う「KSU 基盤教育」を導入しました。

来年 4 月には、芸術学部と九州造形短期大学を同一エリアに集約し、新しいコンセプトに基づく、新しいカリキュラムを開設します。

平成 29 年 4 月以降は、理工学領域、文系領域と順次、新学部・新学科の開設や既存の学部・学科の改組など、現在、鋭意検討を重ねているところです。これから先、大きく変貌する九産大をお見せすることが出来ると思っています。

周年記念事業といたしましては、大学提供のテレビ番組「美の鼓動・九州」の放映を 4 月から開始しました。芸術学部を有する大学の特色を活かし、毎週日曜日に、九州在住あるいは九州出身のクリエイターを紹介しています。短い番組ではありますが、毎回検証を行い、視聴者の皆さんに親しまれる、息の長い番組にしたいと考えております。

本学最大の600人収容の学生食堂も「芸術のある食堂」をコンセプトに、現在リニューアル中ですが、来年4月にオープン予定です。食材は地産地消にこだわり、新しいメニューも投入する予定です。音楽が流れ、芸術作品も鑑賞できる、新しい時代の学生食堂に生まれ変わりますが、地域の皆様もお気軽にご利用下さいますよう、お願い申し上げます。

又、創設者である中村治四郎先生の銅像のリメイクを行いました。今一度、「産業と大学は、車の両輪のように一体となって、時々々の社会のニーズを満たすべきである」とする「産学一如」の精神に立ち返り、「有為な人材を育成する決意」を新たにしたところです。

現在、将来を見据えた「キャンパス整備のマスタープラン」や平成28年から32年までの「中期事業計画」、そして教職員が帰属意識を高める襟章の製作なども検討しており、いずれ近いうちに公表する予定です。

これまで、半世紀を越える長きにわたり積み重ねてきた、歴史や文化を確実に継承し、地域に根ざし、地域に貢献する総合大学、即ち「地域密着型大学」としての礎を再構築し、さらなる発展を目指してまいりますので、今後とも変らぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

話しは少しそれますが、去る10月23、24日、京都に於いて開催されました日本私立大学協会の総会に行ってきました。その時、挨拶をされた方のお話しでは、“もてなしの街京都”では、話の最後に「終わりにあたり」とか「最後になりましたが」とは言わず、「今日お会いした縁を大切にしたい」という気持ちを込めて「結びにあたり」と言うそうです。

私もこの様な気持ちを込めて使わせて頂きます。

結びにあたり、本日花を添えて頂きました皆様方に感謝すると共に、皆様方の益々のご多幸とご健勝をお祈り申し上げ、私の挨拶といたします。

本日は、誠にありがとうございました。